

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670600109	
法人名	医療法人 田岡会	
事業所名	グループホーム やまびこ	
所在地	徳島県三好市池田町シマ 717番地1	
自己評価作成日	令和4年1月22日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和4年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が母体のグループホームである為、入居者の健康管理は毎日細かく母体の医院と連携して行っており、また必要時は、県立総合病院への受診等緊密に連携し、緊急時の対応は24時間迅速に行える体制を設けている。重度化した場合や終末期の取り組みを積極的に行い、安心してホームでの生活が送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し入った道沿いに位置している。建物内に同一法人が運営する他サービス事業所があり、災害対策等、協力関係を築いている。“毎日がゆったりとすぎ、安心とあたたかさの中で、自分らしく誇りを持って生きていく”という理念を掲げ、利用者とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりに合わせた支援に努めている。協力医療機関等と連携し、訪問診療やリハビリテーション、緊急時対応等、適切な医療を受診できる体制を整えている。重度化や終末期に関する研修を継続して行い、スキルアップに取り組んでいる。災害対策では、近隣企業の協力を得て避難訓練を実施している。新型コロナウイルス感染症の流行下において、家族と会うことが制限されるなかでも、活動的な生活の様子を動画に撮ったり、日ごろの写真をアルバムにしたりして、家族に見せるなど工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で地域の人々と交流しながら安心して暮らしていけるよう支援してゆき、地域住民の心の拠り所となれるグループホームを理念としている。又毎朝のミーティング時に全職員で理念を唱和し確認を行い共有と実践に向けて取り組んでいる。	事業所は、職員間で話しあい、作成した理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示したり、ミーティング時に唱和したりして、共有化を図っている。また、理念の実現に向けた目標を作成し、全職員で理念にそった支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われる地域行事が新型コロナウイルス感染症関係で中止となり、日常的な交流はできていないが、近所の美容院や馴染みの商店を利用し少しでも交流の機会をもてるよう努めている。	事業所では、感染症(コロナ等)の流行下においても、ボランティアグループと連絡をとったり、保育園にプレゼントを送ったりして、交流している。近隣住民に事業所だよりを届け、事業所の様子を伝えている。また、地域住民からの認知症に関する相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、地域の方との交流は控えている状況で、実践を通じて積み上げた認知症の方への理解や支援の方法を書面にて送り、地域の方々に認知症への理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染状況をみながら、地域包括支援センターの職員、商店主、ご家族、ご利用者に参加して頂き事業内容、外部評価の結果満足度調査、改善への取り組み等を報告し、参加者から意見を聞きサービスの向上につなげている	年6回、運営推進会議を開催している。事業所の報告のほか、毎回テーマを決めて、専門職から話を聞くなど、内容の充実を図っている。感染症の状況に応じて、開催方法を工夫しているが、書面での開催の際に、各委員から意見を得るまでには至っていない。	今後は、書面会議の際にも、各委員から意見を得ることができるよう工夫されたい。得た意見について職員間で話しあい、サービスの質の向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険センター、福祉事務所、市等と常に交流し情報交換を行っており、生活保護者の支援にも共に取り組んでいる。又、市等が主催する研修には積極的に参加し、サービスの向上に生かすよう努めている。	管理者は、月1回、市担当窓口を訪問し、事業所の報告や情報交換を行っている。感染症流行下における運営推進会議の開催方法や福祉制度の利用等について相談し、助言を得ている。市主催のオンライン研修に参加するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等廃止委員会を行い、身体拘束の理解を深め、身体拘束の弊害を認識して廃止に取り組んでいる。常に見守りして施錠はせず、外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、付き添うなど安全で自由な暮らしを支えている。	事業所では、定期的に身体拘束廃止委員会を開催している。委員会では、リスクの高い利用者等、具体的な課題について検討している。利用者が穏やかに過ごすことができるよう見守りによって、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を事業所内で行っている。また、ミーティングで問題提起し、全職員が認知を深めて虐待の危険を早期に見つけ、対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や権利擁護に関する研修に、管理者や職員は積極的に参加している。事業所内研修も行い、全職員が理解を深めて制度が円滑に活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書の内容を理解できるよう、十分時間をかけて説明している。また、契約を改定する場合は家族等に説明して納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、満足度アンケートを活用し、気軽に意見を伝えやすい体制を取っており又、家族と日頃から関わり、意見や思いを聞き、検討して運営に反映させている。	職員は、日ごろの利用者とかかわりのなかで、意見や要望を聞いている。事業所だよりの送付や電話連絡によって、家族等が意見を伝えやすいよう工夫している。出された意見等は、職員間で話し合い、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チームケア会議で意見、提案、要望、問題点等を話し合っており、又管理者は常に職員の声に耳を傾け、気軽に意見交換を行い検討し、運営に反映させている。	管理者は、毎日のミーティングや定期的なチームケア会議等で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。個別に意見等がないか聞くなど、意見を出しやすいよう工夫している。出された意見等は検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に現場におり、職員の勤務状態や健康状態、悩み等を把握している。また資格取得を支援し、向上心が持てるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や新人研修を計画し、実施している。また保健所や医療機関等で行われる外部研修に積極的に参加し、報告をして全職員が知識を共有できるよう工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の他の事業所と交流し、意見交換や研修を行って質の向上に努めている。また日本認知症グループホーム協会に加入し、情報入手など連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時、本人に直接面会して困っていることや不安、求めていること、健康状態等をよく聞き、状況の把握に努めて安心と信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期相談時、話をよく聞いてかぞくの立場に立って理解し受け止めて、問題点は何か、どうすれば不安のない生活が送れるのか検討し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族が不安なく生活できるよう、必要な支援は何かよく見極め、関連施設や地域包括支援センター、居宅支援事業者と協議して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族だという認識を常に持ち、日頃の生活の中で風習や生活の知恵を教えてもらう等、一人ひとりの能力や個性を活用してともに支えあい暮らせるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を細かく家族に報告し、家族と情報を共有して信頼関係を築いている。ともに助け合い暮らしを支えていき、利用者と家族の絆を深められるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や地域との関係を把握し、入居以前の関係が出来るだけ継続できるように、昔から利用してきた行きつけの理美容院・商店等に付き添って出かけ、馴染みの人との交流を支援するよう、心がけている。	事業所では、感染症の流行下において、利用者が友人と電話したり、ガラス越しに会ったりできるよう支援している。ドライブで自宅や馴染みの場所に出かけ、車中から景色を楽しむこともある。馴染みの店の商品を職員が買ってくるなど、感染予防を第一にしつつ、馴染みの人や場所との関係をつなぐ工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係等を十分に把握し、職員が一緒になってコミュニケーションを図っている。孤立することなく、楽しく過ごせるよう時間を大切にし、利用者同士の関係が円滑になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院した場合は、入院中の相談やお見舞い、世話、情報提供をこまめに行い、退居後も関係を大切にするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に関わり、コミュニケーションを取り、入居者のしたいこと、関心事、好むもの等を把握するように努め、又意思疎通が困難な方には家族からの情報、毎日の生活の中でその人の出すシグナルを見逃さず、意向、希望に沿った暮らしが出来るよう支援している。	職員は、日ごろから利用者とのコミュニケーションを大切にしている。何気ない仕草や表情から思いを汲み取り、職員間で共有している。意思の表出が困難な利用者については、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人の生活歴や家庭環境等を細かく聞き取り、全体像の把握に努めている。また家族や知人の訪問時、情報提供をお願いし、本人の意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの生活の中で、一人ひとりをよく観察し、生活リズムを把握してゆくりと本人の出来ることを声掛けや見守りしながら行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のニーズを細かく聞き取り、気づいた点やアイデア、課題を反映させ、具体的な介護計画を作成している。また状況や変化に合わせて計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族、医師、看護師、リハビリテーション関係者等の意見を踏まえ、実現可能な介護計画を作成している。定期的に、モニタリングや計画の見直しを行っている。また、利用者の心身状況の変化に応じて見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの細かな出来事や変化、ケアの実践効果等を個人記録に記入し、全職員が把握している。本人の希望や状況変化に応じて介護計画を見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったサービスだけでなく、緊急時の通院や送迎、24時間医療対応など、利用者のその時のニーズに応じて臨機応変に必要な支援を行い、一人ひとりの満足度を高められるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は町内会との協働があったが、新型コロナウイルスの関係で、町内会の方々の行事参加、ホームから町内会への参加ができない状況にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望、心身の状態に合わせ、それぞれの医療機関に受診、通院介助し、適切な医療を受けられるよう支援し、また希望により設置母体の医療機関が訪問診療を行い、毎日の健康管理に細かく対応している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的に、協力医や歯科医による訪問診療がある。専門医の受診は、家族の協力を得つつ、臨機応変に支援している。24時間対応可能な体制を整備し、健康管理や適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護・介護職員は常に協力して健康管理や医療支援を行っている。朝夕の申し送り時に心身状態を細かく伝達し、変化を見逃さず緊急時には協力して対応している。また、同一法人の看護師との連携体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院生活を送れるよう医療機関連携している。入院時、その後の情報交換や相談等を行い、早期に退院できるよう支援している。また、お見舞いや家族と交流して状況を把握し、精神的な支援を行いダメージをすくなくするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期の対応方針を早期に家族、本人と話し合い、状況の変化に応じて意向、方針の確認を行っている。また家族、主治医、看護、介護、医療機関等が連携して安心して終末期を過ごせるように支援している。	事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、意向を確認している。関係者で情報を共有し、チームで支援に取り組んでいる。看取り支援等に関する研修や支援の振り返りを行い、希望に添った支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	骨折や発作、誤嚥等の急変、事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、訓練や研修を行っている。全職員が技術を身に付け、素早く的確に緊急に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火・避難訓練を行っている。消防署と連携し、法人全体での合同訓練や研修を行っている。職員の緊急連絡網を整備し、法人全体で協力できるような体制を築いている。	年2回、火災や水害を想定した避難訓練を行っている。近隣企業に協力を依頼し、参加を得ている。居室前に利用者の移動手段を表示したり、避難経路を掲示したりして、スムーズに避難できるよう工夫している。1週間分の備蓄を整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			すずらん	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄等の誘導は自然に目立たないように声かけし、また尊厳を傷つけないように呼び方、言葉かけには十分気をつけており、個人情報保護の研修を行い、職員の意思向上に努めている。	職員は、利用者一人ひとりの誇りや羞恥心に配慮した支援に努めている。さりげない声かけや誘導を心がけ、声量にも配慮している。自己決定できる場面を設けるなど、一人ひとりの思いを大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりをよく観察し、毎日の生活の中でその人の出すシグナルを注意深く受け止めて本人の希望や好みを把握し、職員が押し付けることなく本人の意思が反映され決定できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールにとらわれず、その日その人のしたいことを把握して個別対応に努め、一人ひとりの生活リズムに配慮しながら利用者のペースを常に優先し、その人らしく毎日が送れるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に見守り、整容の乱れや汚れがあれば、さりげなく整えている。一人ひとりの個性やこだわっている髪型、スタイル等を把握し、その人らしさが保てるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう昔の行事日には行事食を入居者と相談して取り入れ(冬至のカボチャ、年越しそば、七草粥、彼岸のおはぎ、ひな寿司等)お手伝いしてもらい提供している。また出来上がったものは職員と一緒に楽しく食事が出来るように努めている。	事業所では、管理栄養士と相談し、献立を作成している。食事の準備等には、利用者が関わる機会を設けている。季節や行事に応じたメニューを取り入れたり、おやつづくりをしたりして、食事が楽しみになるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎日の水分、食事摂取量のチェック表を作成し、記録している。定期的に併設事業所の栄養士に献立やカロリー等のチェックを行ってもらい、栄養のバランスがとれるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを全員が行えるよう根気よく働きかけている。利用者の状態や能力に合わせた口腔ケアを支援し、口腔内の清潔保持に努めて肺炎を予防している。			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 すずらん 実践状況	実践状況 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの状態にあったオムツやパンツ等の種類を使い分けている。チェック表を活用し、排泄パターンを把握して誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄に向けて支援している。	職員は、排泄の自立に向けた支援や適切な対応等について話しあっている。排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は、職員2人で介助するなどして、トイレで排泄できるよう支援している。夜間は、利用者の体の負担にならないようポータブルトイレ等を活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを把握して、一人ひとりの便秘の原因を把握できるよう努めている。寒天やヨーグルトの摂取、水分摂取の徹底、散歩等を取り入れて自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は介護者がつき、一人ひとりゆっくりと自宅での入浴と同じようにくつろいでもらえるよう工夫しており、希望の時間帯も出来るだけ考慮している。また同性の職員が介助するように心がけている。	事業所では、週2～3回の入浴ができるよう支援している。車いすを使用している利用者も浴槽につかることができるよう支援している。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を行い、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、心地よい疲れで安眠が得られるように日中の活動を促すよう努めている。寝つけない時は無理せず、職員とテレビを見たりお茶を飲むなどして安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が主に薬の管理を行い、医師の指示に従って服薬を支援している。他の職員も常に利用者の病気や薬の内容を把握し、薬に変更があった場合の副作用に注意し、観察している。また服薬の間違いを防ぐためにチェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や残存能力を把握し、草取りや洗濯たたみ、テーブル拭き、花の栽培等出来ることを見出し、活気ある楽しい生活を支援している。また懐かしい歌を職員とともに歌い、癒しと刺激になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、屋外に出る時間を増やし本人の希望に少しでも添えるよう支援に努めている。季節に応じて、降りないドライブなど感染症に留意しながら家族や地域の方々の協力を得ながら支援している。	事業所では、感染症の流行下においても、近隣の散歩に出かけたり、日光浴を行ったりして、気分転換を図っている。ドライブで馴染みの場所に出かけることを支援している。また、感染症終息後に行きたいところを話すなど、外出に対する興味・関心の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて金銭管理が出来る方には管理してもらっている。事業所で管理している方には買い物時に預かった金銭を渡して、買い物の楽しみを味わってもらっている。定期的に預かり金の帳簿を家族に見てもらい了承を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用して居室や希望の場所でいつでも電話できるように配慮している。希望によって職員が手紙の代筆をしたり年賀状や暑中見舞い状は毎年出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごす居間(ホール)等は手作りのソファや昔懐かしい置物、冬にはこたつを置き、また季節のお花や季節感のある飾りつけを行い、居心地よい懐かしい環境づくりに努めている。	共用空間は、大きな窓から光が差し込み、明るい。壁面には、利用者の作品や写真等を飾り、季節感がある。窓辺には、花や観葉植物を配置し、利用者に水やりや手入れ等、役割を担ってもらっている。利用者と一緒に掃除をしたり、換気をして、清潔で安全な環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に昔懐かしい置物と椅子を置き、ベランダに園芸コーナーを作って空間に長椅子を設置する等、くつろいで過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談し、日頃から使い慣れた日用品や馴染みの品を持ち込み、自宅とギャップの少ない雰囲気を作って不安を解消し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、利用者一人ひとりの馴染みの物を持ち込んでもらっている。写真や手作りの作品を飾るなど、明るく、温かみのある空間となっている。利用者と一緒にタンスの整理や掃除を行い、居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境変化から起こる混乱を防ぎ、自立して安全に生活が送れるようトイレや風呂場、流し台の高さ等の工夫をしている。一人ひとりをよく観察し、職員が知恵を出し合って、利用者に合わせた道具を工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で地域の人々と交流しながら安心して暮らしていけるよう支援してゆき、地域住民の心の拠り所となれるグループホームを理念としている。又毎朝のミーティング時に全職員で理念を唱和し確認を行い共有と実践に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われる地域行事が新型コロナウイルス感染症関係で中止となり、日常的な交流はできていないが、近所の美容院や馴染みの商店を利用し少しでも交流の機会をもてるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、地域の方との交流は控えている状況で、実践を通じて積み上げた認知症の方への理解や支援の方法を書面にて送り、地域の方々に認知症への理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染状況をみながら、地域包括支援センターの職員、商店主、ご家族、ご利用者に参加して頂き事業内容、外部評価の結果満足度調査、改善への取り組み等を報告し、参加者から意見を聞きサービスの向上につなげている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険センター、福祉事務所、市等と常に交流し情報交換を行っており、生活保護者の支援にも共に取り組んでいる。又、市等が主催する研修には積極的に参加し、サービスの向上に生かすよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等廃止委員会を行い、身体拘束の理解を深め、身体拘束の弊害を認識して廃止に取り組んでいる。常に見守りして施錠はせず、外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、付き添うなど安全で自由な暮らしを支えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を事業所内で行っている。また、ミーティングで問題提起し、全職員が認知を深めて虐待の危険を早期に見つけ、対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や権利擁護に関する研修に、管理者や職員は積極的に参加している。事業所内研修も行い、全職員が理解を深めて制度が円滑に活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書の内容を理解できるよう、十分時間をかけて説明している。また、契約を改定する場合は家族等に説明して納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、満足度アンケートを活用し、気軽に意見を伝えやすい体制を取っており又、家族と日頃から関わり、意見や思いを聞き、検討して運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チームケア会議で意見、提案、要望、問題点等を話し合っており、又管理者は常に職員の声に耳を傾け、気軽に意見交換を行い検討し、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に現場におり、職員の勤務状態や健康状態、悩み等を把握している。また資格取得を支援し、向上心が持てるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や新人研修を計画し、実施している。また保健所や医療機関等で行われている外部研修に積極的に参加し、報告をして全職員が知識を共有できるよう工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の他の事業所と交流し、意見交換や研修を行って質の向上に努めている。また日本認知症グループホーム協会に加入し、情報入手など連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時、本人に直接面会して困っていることや不安、求めていること、健康状態等をよく聞き、状況の把握に努めて安心と信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期相談時、話をよく聞いてかぞくの立場に立って理解し受け止めて、問題点は何か、どうすれば不安のない生活が送れるのか検討し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族が不安なく生活できるよう、必要な支援は何かよく見極め、関連施設や地域包括支援センター、居宅支援事業者と協議して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族だという認識を常に持ち、日頃の生活の中で風習や生活の知恵を教えてもらう等、一人ひとりの能力や個性を活用してともに支えあい暮らせるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を細かく家族に報告し、家族と情報を共有して信頼関係を築いている。ともに助け合い暮らしを支えていき、利用者と家族の絆を深められるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や地域との関係を把握し、入居以前の関係が出来るだけ継続できるように、昔から利用してきた行きつけの理美容院・商店等に付き添って出かけ、馴染みの人との交流を支援するよう、心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係等を十分に把握し、職員と一緒にコミュニケーションを図っている。孤立することなく、楽しく過ごせるよう時間を大切にし、利用者同士の関係が円滑になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院した場合は、入院中の相談やお見舞い、世話、情報提供をこまめに行い、退居後も関係を大切にしよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に関わり、コミュニケーションを取り、入居者のしたいこと、関心事、好むもの等を把握するように努め、又意思疎通が困難な方には家族からの情報、毎日の生活の中でその人の出すシグナルを見逃さず、意向、希望に沿った暮らしが出来るよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人の生活歴や家庭環境等を細かく聞き取り、全体像の把握に努めている。また家族や知人の訪問時、情報提供をお願いし、本人の意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの生活の中で、一人ひとりをよく観察し、生活リズムを把握してゆっくりと本人の出来ることを声掛けや見守りを行って行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のニーズを細かく聞き取り、気づいた点やアイデア、課題を反映させ、具体的な介護計画を作成している。また状況や変化に合わせて計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの細かな出来事や変化、ケアの実践効果等を個人記録に記入し、全職員が把握している。本人の希望や状況変化に応じて介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったサービスだけでなく、緊急時の通院や送迎、24時間医療対応など、利用者のその時のニーズに応じて臨機応変に必要な支援を行い、一人ひとりの満足度を高められるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は町内会との協働があったが、新型コロナウイルスの関係で、町内会の方々の行事参加、ホームから町内会への参加ができない状況にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望、心身の状態に合わせ、それぞれの医療機関に受診、通院介助し、適切な医療を受けられるよう支援し、また希望により設置母体の医療機関が訪問診療を行い、毎日の健康管理に細かく対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護・介護職員は常に協力して健康管理や医療支援を行っている。朝夕の申し送り時に心身状態を細かく伝達し、変化を見逃さず緊急時には協力して対応している。また、同一法人の看護師との連携体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院生活が送れるよう医療機関連携している。入院時、その後の情報交換や相談等を行い、早期に退院できるよう支援している。また、お見舞いや家族と交流して状況を把握し、精神的な支援を行いダメージをすくなくするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期の対応方針を早期に家族、本人と話し合い、状況の変化に応じて意向、方針の確認を行っている。また家族、主治医、看護、介護、医療機関等が連携して安心して終末期を過ごせるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	骨折や発作、誤嚥等の急変、事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、訓練や研修を行っている。全職員が技術を身に付け、素早かつ確に緊急に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火・避難訓練を行っている。消防署と連携し、法人全体での合同訓練や研修を行っている。職員の緊急連絡網を整備し、法人全体で協力できるような体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄等の誘導は自然に目立たないように声かけし、また尊厳を傷つけないように呼び方、言葉かけには十分気をつけており、個人情報保護の研修を行い、職員の意思向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりをよく観察し、毎日の生活の中でその人の出すシグナルを注意深く受け止めて本人の希望や好みを把握し、職員が押し付けることなく本人の意思が反映され決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールにとらわれず、その日その人のしたいことを把握して個別対応に努め、一人ひとりの生活リズムに配慮しながら利用者のペースを常に優先し、その人らしく毎日が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に見守り、整容の乱れや汚れがあれば、さりげなく整えている。一人ひとりの個性やこだわっている髪型、スタイル等を把握し、その人らしさが保てるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう昔の行事日には行事食を入居者と相談して取り入れ(冬至のカボチャ、年越しそば、七草粥、彼岸のおはぎ、ひな寿司等)お手伝いしてもらい提供している。また出来上がったものは職員と一緒に楽しく食事が出来るように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎日の水分、食事摂取量のチェック表を作成し、記録している。定期的に併設事業所の栄養士に献立やカロリー等のチェックを行ってもらい、栄養のバランスがとれるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを全員が行えるよう根気よく働きかけている。利用者の状態や能力に合わせた口腔ケアを支援し、口腔内の清潔保持に努めて肺炎を予防している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの状態にあったオムツやパンツ等の種類を使い分けている。チェック表を活用し、排泄パターンを把握して誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを把握して、一人ひとりの便秘の原因を把握できるよう努めている。寒天やヨーグルトの摂取、水分摂取の徹底、散歩等を取り入れて自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は介護者がつき、一人ひとりゆっくりと自宅での入浴と同じようにくつろいでもらえるよう工夫しており、希望の時間帯も出来るだけ考慮している。また同性の職員が介助するように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、心地よい疲れで安眠が得られるように日中の活動を促すよう努めている。寝つけない時は無理せず、職員とテレビを見たりお茶を飲むなどして安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が主に薬の管理を行い、医師の指示に従って服薬を支援している。他の職員も常に利用者の病気や薬の内容を把握し、薬に変更があった場合の副作用に注意し、観察している。また服薬の間違いを防ぐためにチェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や残存能力を把握し、草取りや洗濯たたみ、テーブル拭き、花の栽培等出来ることを見出し、活気ある楽しい生活を支援している。また懐かしい歌を職員とともに歌い、癒しと刺激になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、屋外に出る時間を増やし本人の希望に少しでも添えるよう支援に努めている。季節に応じて、降りないドライブなど感染症に留意しながら家族や地域の方々の協力を得ながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて金銭管理が出来る方には管理してもらっている。事業所で管理している方には買い物時に預かった金銭を渡して、買い物の楽しみを味わってもらっている。定期的に預かり金の帳簿を家族に見てもらい了承を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用して居室や希望の場所でいつでも電話できるように配慮している。希望によって職員が手紙の代筆をしたり年賀状や暑中見舞い状は毎年出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごす居間(ホール)等は手作りのソファーク掛けや昔懐かしい置物、冬にはこたつを置き、また季節のお花や季節感のある飾りつけを行い、居心地よい懐かしい環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に昔懐かしい置物と椅子を置き、ベランダに園芸コーナーを作って空間に長椅子を設置する等、くつろいで過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談し、日頃から使い慣れた日用品や馴染みの品を持ち込み、自宅とギャップの少ない雰囲気を作って不安を解消し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境変化から起こる混乱を防ぎ、自立して安全に生活が送れるようトイレや風呂場、流し台の高さ等の工夫をしている。一人ひとりをよく観察し、職員が知恵を出し合って、利用者に合わせた道具を工夫している。		